

地区名	事業名称	事業概要
松代地区	現代訳語 松代三山顕彰碑	<p>松代からは偉人先覚者と言われる人物がたくさん排出していますが、これらの人物についてかつては各家庭や学校において広く語られ学ぶ機会がありました。近年ではそれも少なく、大人になって知って驚くことが多くなりました。</p> <p>しかし、幸いなことに我が町に住み暮らした賢人達が郷土の先覚者達を石に刻んで顕彰し後世の私たちに残しています。</p> <p>その顕彰碑を味読し先覚者たちの志を継承することにより、わが松代に生まれた人たちに勇気を与え、誇りを持って郷土長野から全国に、また世界に羽ばたく人物を育てる契機にすることを目的にします。</p>
信州新町地区	信州新町 犀川とカヌー魅力発見プロジェクト Part 2 (継続2年目)	<p>地域の特色あるスポーツであるカヌーを通じ、信州新町カヌークラブと犀川高校カヌー部と連携して、小中学校の児童生徒と保護者を対象に、幅広い世代間交流を図る。</p> <p>段階を経た技能講習からミニツーリングまで、カヌー体験をすることで犀川の豊かな自然を体感し、カヌーの魅力を発信することで、地区の活性化や魅力あるまちづくりの一端を担う。</p> <p>26年度の実施において、犀川やカヌーを通じた交流が有益であったことから、持続可能な取組としていく。</p>
中条地区	虫倉山登山道整備プロジェクト	<p>中条地区のシンボリック的存在である虫倉山において、以前から登山者及び地元住民からコース整備の要望が強く寄せられており、さらには地震の影響により数か所で崩落等があり危険な状態であることから本格的な整備・修復を行う。</p> <p>地元住民、山岳会、ボランティアの力を合わせ、支障木の伐採、案内看板の修理・補充、木製階段の設置を実施し、危険箇所については業者委託により整備をすることで、子供から大人までの多くの登山客の安心快適な登山を確保する。</p>

地区名	事業名称	事業概要
若槻地区	若槻地区防災ネットワーク整備事業	<p>若槻地区では、地区災害対策本部と各自主防災会との情報伝達訓練を実施しているが、災害時の通信手段が課題となっていることから、無線機を配備する。</p> <p>各区の被害状況、各区相互の支援要請等について円滑に情報伝達が出来るようマニュアルの整備を含め、災害時及び訓練時に活用し、地区内連携による防災対応力の向上を図る。</p> <p>また、地区イベントにおいても無線機を積極的に活用することで、イベントの安全で円滑な運営に役立てていく。</p>
若槻地区	若槻自然遺産活用プロジェクト	<p>若槻地区の豊かな自然を次の世代に残すため、環境保全事業として若槻自然遺産ガイドマップの発行を行う。</p> <p>25年度から、自然遺産に登録したい候補の募集や現地調査を進めている。今後は実行委員会を設置し、これらの調査を基に住民対象の見学会を実施し、幅広い意見と評価を収集する。</p> <p>更に視察調査・資料収集を進めてガイドマップを編集・発行し、全戸配布することで我が街の自然に目を向け、保護保全に取り組む住民参加型の活動を創設する。</p>
浅川地区	浅川地区地域資源再発見事業 ～あさかわ魅力再発見～	<p>平成 25 年度に作成した「浅川地区交流観光マップ」を活用し、地区の神社・史跡等を地元ガイドと共に回る名勝地巡りを開催することで住民の身近なパワースポットへの関心を高めていく。</p> <p>また、よき浅川地域が感じられる風景として地域の写真を広く募集し、展示・コンテストを行う等、中山間地の活性化をさらに図るとともに平坦地との交流を深め、地域資源の再発見へと結びつけていく。</p>
更北地区	更北地区住民による子育てプロジェクト	<p>更北地区では、子育て世代が年々増加しており、アンケート結果でも子育てに関する情報の提供要望が強かったことから、子育て支援や地区内の遊び場などの情報を詳しく掲載した『更北版子育てガイドブック』を作成し、子育て世帯や子育て教室の参加家庭に配布する。</p> <p>公共施設の窓口にも配置し、広く活用を図ることで、子育て世代相互の交流はもとより、地域住民自らの子育てへの参加による新旧住民の融和、地域の一体性の醸成に繋げていく。</p>

地区名	事業名称	事業概要
七二会地区	七二会地区 史跡ガイドブックの作成	<p>七二会地区には多数の文化遺産があるが、歴史の経過とともに埋もれてしまっている。</p> <p>伝承保存については住民の要望も多く、若者達が自分のルーツを知るなど、故郷に対する愛着度の向上を図るため、史跡ガイドブックを作成し全戸配布を行う。</p> <p>公募によりプロジェクトチームを立ち上げ、調査・編集を行い、遺跡や城址、名勝等の文化遺産を写真とともに成り立ちの説明を付した内容とし、学校教育においても郷土史の学習として活用を図る。</p>
小田切地区	小田切地区災害時連絡体制整備事業	<p>小田切地区は、集落が散在しており、災害時の停電や電話の不通などの事例が出ている。</p> <p>今後、災害発生時における情報途絶や孤立防止対策として情報伝達手段の確保が必要であることから、地区内全区に防災連絡用無線機を配備し、連絡体制を整えることで、停電時等の連絡手段の確保と各地区での安否確認等の情報収集・情報共有を図る。</p> <p>各地区ごとに自主防災訓練を実施し、定期的に情報収集伝達訓練を実施する。</p>
安茂里地区	安茂里総合市民センターをイルミネーションで飾ろう (継続2年目)	<p>長野工業高校生徒会、裾花中学校ものづくり部の生徒と実行委員会を編成し、安茂里総合市民センター駐車場にイルミネーションの飾り付けを行う。生徒には、システムの組み立てを含め、イルミネーションのキャラクターや展示方法及びデザインの新企画提案を依頼し、事業に広く係わってもらうことで、交流をより盛んにしていく。</p> <p>イルミネーションの点灯が、安茂里地区最大の行事であるアモーレフェスタと並行する行事となるようイメージづくりに努める。</p>

地区名	事業名称	事業概要
芹田地区	2015 第12回 芹田地区ふれ あいコンサ ート (継続3年目)	<p>芹田地区は 17 地区で構成されており一体感が欠けがちになることから、地域が一体となって取り組めるふれあいコンサートを開催している。合計約 1 千名の住民が参集し、会場と一体となって歌うことで住民同士の交流を深め、広く地域の話題となり地域の一体感が深まっている。</p> <p>第 12 回を迎えるに当たり、新たな取組として中山間地区へ参加を呼びかけ、地域間交流の場を設け、新生コンサートの継続発展となるよう計画をしている。</p>
篠ノ井地区	篠ノ井の民話 と伝承の掘り 起しと創作民 話の活用事業 (継続3年目)	<p>篠ノ井全 75 地区の埋もれている民話と伝承を地元のお年寄りからの聞き取りにより記録整理し、地区住民や子ども達と協力して民話文を検証・校正し民話集・紙芝居の製作を行う。</p> <p>地域や児童館などでの朗読会や紙芝居の実演に活用することにより、地域交流を進め、子どもからお年寄りを含めた世代間交流が図られることで、歴史や民話の里として活力ある篠ノ井地区を目指すとともに、篠ノ井の伝承と創作民話集を発刊し次世代へ繋ぐ。</p>
芋井地区	葛山夢(ドリー ム)プロジェク ト	<p>芋井地区南東部には、市文化財指定を受けている葛山城址がある。</p> <p>この史跡並びに遊歩道の維持管理を行ってきた地元保存会の解散を受け、10年に亘る再整備計画を策定するとともに芋井全域からの有志による管理組織を発足した。</p> <p>城址・周辺遊歩道の整備と新たに駐車場を設置する計画であり、できうる限りの作業を地元住民により行う。</p> <p>史跡めぐりツアーなどイベントの開催と活動基点の整備を通じ、住民や観光客の利用促進を図る。</p>

地区名	事業名称	事業概要
大岡地区	地域マインドをかえる学舎融合プロジェクト	<p>大岡では、学校消滅という現実も見えている中、地域を諦める傾向が強まってきている。この流れに竿をさし、「地域肯定感」を呼びもどしたい。</p> <p>そのために、地域を再発見する住民参加型の'ムラ歩き'講座を開設し、その見聞成果を冊子というカタチに残し、大岡の「すごい」を共有する。またこの冊子は、移住希望者などへの大岡紹介資料としても使用する。さらに、学校とも連携して小中学校の生徒による聞き書きを行い地域新聞として発行する。</p>
三輪地区	ご意見箱付掲示板設置事業（継続2年目）	<p>ご意見箱付お知らせ板を全10地区へ設置し、タイムリーな情報の周知と、住民の声・意見を把握し活動に反映させると共に、住民自治協議会への理解と認知度を高めることを目的としている。</p> <p>2年計画の中、26年度は5地区にご意見箱付お知らせ板を設置し、運用を開始した。お知らせ板により情報提供の充実が図れたと共に、ご意見箱へも、区民から多くの建設的な意見が寄せられている。27年度には、残りの5地区へ設置し、全10地区でより充実した広報広聴活動に取り組む。</p>
朝陽地区	朝陽地区あいさつ運動50回記念事業	<p>朝陽地区では全地域で通年を通してあいさつ運動が実施され、定着した活動となっており、50回を迎える。</p> <p>節目の回として、あいさつ運動をより拡大し、明るい地域づくりへつなげるため、啓蒙ジャンパーの作成及び、あいさつ運動50回記念大会を企画する。</p> <p>朝陽地区区民を一堂に会し、NHKラジオ体操指導者の指導のもと、あいさつの実習、体操、講演等を実施する。</p>

地区名	事業名称	事業概要
朝陽地区	朝陽地区 防災ネットワーク基盤の整備	<p>災害時の一時避難場所であり、各区の災害対策本部が置かれる公民館、公会堂に災害情報が収集できるインフラ基盤の整備を行い、避難住民へ災害・避難情報を迅速に提供できる仕組みを構築する。朝陽地区全8区の公民館、公会堂に端末を設置し、インターネットにより防災関連情報を適時参照したり、他地区の防災・災害情報を共有し、住民の避難行動などに活かせるようにする。</p> <p>また、防災訓練、各種集会時における活用を図る。</p>
古牧地区	地域防災ネットワークシステムの整備	<p>平成24年度に起きた豪雨災害の際、地区の正確な情報伝達・迅速な救護活動ができなかったことから、検討を重ね防災デジタル無線の導入を開始、伝達訓練等を実施している。</p> <p>しかし、障害物等により地区全域に一斉通報可能な緊急防災無線の役割を成し得ていないため、デジタル無線を増やし固定局・アンテナを設置することで地区全体を網羅するとともに、防災組織の見直しを行い、緊急時の連絡網を整備する。</p>
長沼地区	長沼地区の防災力向上事業	<p>長沼地区は常に水害の危険性が高い地域であり、住民にとって大きな不安となっていることから、防災に関する有識者からのアドバイスを受けて長沼地区防災計画を策定。</p> <p>計画に沿った避難ルールブック・防災マップを作成し、全戸に配付することで、各家庭において非常時の対応がとれるよう周知するとともに、毎年実施している防災訓練の内容充実を図り、災害発生時には被害を最小限にとどめられるよう地区の防災力を向上させる。</p>
第三地区	第三地区「鍋屋田の里」ホタル再生事業（継続2年目）	<p>第三地区では、鍋屋田の里ホタル再生事業地区委員会を組織し、地域が一体となってホタル再生への取組を進めている。</p> <p>26年度には鍋屋田小学校のホタル池水路の改修を実施するなど、環境を整え、数匹のホタルが飛び交うようになったが、水辺環境に課題が残っていることから、植栽等を行い、より生育環境の整備を進めるとともに、育成会・学校の協力を得て、児童と協力して清掃活動や観察会などに取り組むことで世代間交流と地域への愛着を深める。</p>